

令和5年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業

実施報告書

現地訓練（中国・四国ブロック）



1. 目 的

災害時に外国人を支援するために設置する災害多言語支援センターの活動の基礎を実地研修により確認し、災害時における外国人住民等の支援を円滑に行うポイントを確認する。また、訓練に参加する中国・四国ブロック管内の地域国際化協会の連携を強化する。

2. 業務内容

全国の地域国際化協会職員を対象とした広域での災害時外国人支援に関する研修の実施に係る以下の業務

- (1) 研修・訓練の日程・会場を各ブロックの会長協会と連携して決定
- (2) 研修・訓練の企画・事前打合せを会長協会、講師と調整し決定
- (3) 会場の借上げ、使用物品手配、会場管理者との事前調整、会場費支払い・参加者取りまとめ、参加者名簿の作成
- (4) 外国人協力者手配の会長協会への依頼、ボランティア保険加入、謝礼支払い・講師に対して旅費・謝金の支払い
- (5) 研修・訓練で使用する資料、物品、事務用品等の準備
- (6) 研修・訓練当日の会場設営、資料配布、司会進行及び全体管理
- (7) 報告書作成

3. 実施日時・会場

日時：令和5年12月1日（金）9時30分～16時00分

会場：広島国際会議場 小会議室「ラン」（広島県広島市中区中島町1-5）

4. 対象

地域国際化協会中四国ブロック会員協会の職員・関係者

（公財）広島平和文化センター

広島市国際化推進課

地域国際化協会職員

都道府県職員

政令指定都市職員

「災害時外国人支援情報コーディネーター養成研修」受講者

5. 研修テーマ

発災後に災害多言語支援センターを設置し、基本的な運営ができるようになるとともに、中国・四国ブロック管内の地域国際化協会等の連携を確認する

6. 実施内容・スケジュール

【1日目】

挨拶 （一財）自治体国際化協会 多文化共生部 部長 百武 和宏 氏

講義1 『災害時における外国人対応』

（一社）国際多文化研修ラボ 代表理事 松本 義弘 氏

講義2 広島市の取り組み紹介

広島市 市民局 国際平和推進部 国際化推進担当部長 河村 千鶴子 氏

講義3 災害時広域連携に関する協定および災害時外国人住民支援活動助成金について

（一財）自治体国際化協会 多文化共生部 多文化共生課 主事 岡本 良太 氏

訓練 災害多言語支援センター設置・運営訓練 説明

ファシリテーター （特活）多文化共生リソースセンター東海 代表理事 土井 佳彦 氏

《プログラム》

時間	内容
9:30 - 9:40	開会、主催者挨拶、主旨説明等
9:40 - 10:20	【講義1】 災害時における外国人対応』
10:20 - 10:50	【講義2】 広島市の取り組み紹介
10:50 - 11:05	【講義3】 災害時の外国人支援に係る地域国際化協会間の広域的な相互支援の枠組みについて
11:05 - 11:15	<休憩>
11:15 - 11:35	【訓練】 災害多言語支援センター設置・運営訓練 手順等説明
11:35 - 12:00	設置運営訓練① 情報収集・情報発信
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 13:50	設置運営訓練② ※午前中の続き（情報収集・情報発信）
13:50 - 14:10	避難所巡回説明 巡回班編成・巡回準備
14:10 - 14:40	避難所巡回
14:40 - 15:00	巡回情報の相談対応・整理
15:00 - 15:10	休憩
15:10 - 15:50	ふりかえり・質疑応答
15:50 - 16:00	まとめ 講評

7. 実施結果

訓練の被災想定は水害とし、広島市が作成する「広島市災害多言語支援センター設置・運営マニュアル」に沿った設置運営訓練を実施した。また、被災自治体の支援のため、地域国際化協会間の災害時の広域連携協定に基づき、中国・四国ブロックの地域国際化協会職員が広島市に駆けつけ、広島市及び、（公財）広島平和文化センターの職員や関係者と一緒に支援にあたるという設定で実施した。

避難所巡回訓練では、広島市に在住する外国人住民が、被災した外国人役として参加した。また、ICT 機器を活用し、Zoom を用いた遠隔での相談対応シミュレーションも実施し、どのような体制、手法、心構えで外国人支援にあたるかを学んだ。また、この訓練で参加者同士の交流も行われ、災害時に必要な顔の見える関係づくり・ネットワークの構築を図ることができた。

8. 参加団体一覧

都道府県名	団体名	参加者数
広島県	広島県	3名
	広島市 国際化推進課	5名
	福山市 多様性社会推進課	2名
	(公財)ひろしま国際センター	1名
	(公財)広島平和文化センター	9名
	呉市国際交流協会	1名
鳥取県	鳥取県 観光交流局交流推進課	1名
島根県	(公財)しまね国際センター	1名
山口県	周南市 観光交流課	2名
	(公財)山口県国際交流協会	1名
徳島県	徳島県	1名
	(公財)徳島県国際交流協会	2名
岡山県	(一財)岡山県国際交流協会	1名
香川県	(公財)香川県国際交流協会	2名
愛知県	(公財)愛媛県国際交流協会	1名
高知県	(公財)高知県国際交流協会	2名

9. 参加者の声

- 応援の立場、被災自治体のそれぞれの立場で準備すべきものについて。
- 一番の収穫は、日本人被災者と外国人被災者で大きく対応を変える必要はないことに気づけたこと（言語の問題はあるが）。平等にしっかりと対応すれば、彼らの不安の大半は取り除けると感じた。
- 巡回中に一人ひとりカルテを作成する等、思っていた以上にきめ細やかな対応を現場で行っていることを知った。
- 訓練に初めて参加したが、避難所への聞き取りの心得や何を情報として入手するのか、どうやってするのか等を知ることができた。また、他県国際交流協会のスタッフから「研修に来ることで顔を知ってもらえるし、災害が起きた時に支援がスムーズに行える」とのコメントもあった。当協会は現状、人の出入りが激しく長く勤務する職員やスタッフがいらない。顔つなぎをしていく必要もあると感じた。
- インターネットを活用した遠隔での通訳の有効性。発信情報の簡略化、やさしい日本語化の重要性。避難所としての支援体制の重要性。
- 開設の手順など、現場の流れを知ることができて良かったです。
- アウェイな状態（県外からの支援者）での災害支援の難しさ（土地勘のなさ）。
- やさしい日本語発信は最も効率よく多くの方に情報提供できる方法であること。
- 引継ぎの難しさ。
- 意見交換の場が多かったため。

- 巡回時の心構え、準備、人数、性別の構成、質問の仕方、オンラインでつなぐ場合の準備、体制
- 実際に外国人と接して行う訓練は初めてだったので、想定より難しさがあつた。
- 机上でマニュアルだけ読むのとは全く違う気づきが多くあつた。
- 新しく Zoom も使って災害対応を考えたいと思いました。同じグループで ipad で記入しながら対応されていて参考になりました。
- 現場で仕事をしており、外国人対応自体は慣れていて、心得、コミュニケーションなどは新しい知見は少なかったが、市の災害時の組織編制（備蓄等）日本人側の災害時対応（連携）で知らないことが多かつた。
- しっかりとした訓練は初めてだったので、全てが貴重な学びとなりました。
- 机で作成したマニュアルが実際に使えるか否か訓点で気づき、反省点を踏まえてバージョンアップが必要。また、待ちの姿勢ではなく、自ら考え、行動できるスタッフ育成が大きな課題。

10. 記録写真

< 開会挨拶：関根氏 >



< 講義 1：松本氏 >



< 講義 2：河村氏 >



< 講義 3：岡本氏 >



< 演習：総務班・情報班 >



< 演習：避難所巡回 >



< 演習：遠隔通訳 >



< ふりかえり・質疑応答 >

